

## カナカナゼミ



コロナ禍、梅雨明け初日の朝、自転車でお店に向かうため、森林公園を抜けようとする時、突然、森の奥の方でカナカナゼミが鳴き出しました。

「かなかなかなあ」

カナカナゼミは別名「日暮し」と言っ、夏の日が落ちるころに鳴く蝉です。

その鳴き声を聞いていると、日が陰って薄暗くなり、少しずつひんやりしてくるせいもあって「お祭りが終わった後」のようになんとなく物悲しい気分になるのですが、それをこれからお店が始まる「気分の上り坂」にしなくてはならない朝から聞くとは思ってもいなかったので、少し憂鬱な気分になりました。

「なんで、選りによってやっ、梅雨が明けた日の、しかも朝から、鳴いているんだ、縁起でもない」

そう思うと少し腹立たしくなってきたのですが、更にその「かなかなかなあ」という鳴き声を否応なしに耳にしていると

「ほんと、かな？ほんと、かな？本当にそれでいいの、かな？かなかなかなあ？」

と言っているような気がしてきました。

「あんた方、なんで私たちがこんな時間に鳴くようになってしまったのか、少しは考えてみたらどうですか？」

そういって、何かの気づきを促しているような気も致しました。